

令和 4 年 5 月 10 日現在

機関番号：37116

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2021

課題番号：15K11691

研究課題名（和文）不妊外来における初回受診カップルへのケアモデル開発

研究課題名（英文）Development of a care model for couples visiting first-time on fertility clinic

研究代表者

實崎 美奈（Jitsuzaki, Mina）

産業医科大学・産業保健学部・教授

研究者番号：80412667

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000円

研究成果の概要（和文）：日本では確立されていない不妊外来における初回受診カップルへのケアモデルを開発するために、国内外におけるケアの実際について文献および参加観察による調査を行った。その結果、ケアはWebサイトでの情報提供など受診前から始まり、受診当日には問診、診察、検査、情報収集、情報提供や受診者の理解度の確認などが行われていることが明らかになった。この調査により、既出のガイドラインでは言及されていない具体的なケア項目を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもがほしいのにできないことによる悩みやストレスはカップルが不妊外来への通院を開始する前から始まる。多くのケースでは自分たちが不妊であることを自認するという最初の壁を乗り越えた上で受診に至っているにもかかわらず、様々な理由で通院開始後早期に通院を中断するケースは少なくないと言われている。不妊外来において初回受診カップルへの適切なケアを提供することは、通院開始後早期に不本意に通院を中断するケースを減少させることにつながる。

研究成果の概要（英文）：In order to develop a care model for couples visiting first-time on fertility clinic, which has not been established in Japan, we conducted a survey of the actual care in Japan and overseas based on literature and participation observation. As a result, care began before the consultation, such as providing information on the website, and on the day of the consultation, interviews, examinations, information gathering, information provision, and confirmation of the examinee's understanding were performed. We clarified specific care items not mentioned in the former guidelines.

研究分野：母性看護学

キーワード：不妊患者カップル 初回受診時ケア ケアモデル開発

1. 研究開始当初の背景

日本では約3割の夫婦が不妊を心配したことがあり(国立社会保障・人口問題研究所、2011)。女性の晩婚化、晩産化に伴いその割合は増加傾向にある(岩澤・三田、2007)。不妊患者の多くは身体的な健康問題を抱えていないにもかかわらず、不妊治療には身体的・精神的・経済的な苦痛や負担が伴うといわれている(小泉、2005)。不妊患者の精神面のケアは、欧米諸国では生殖医療チーム内への配置が義務づけられているカウンセラーが、日本では看護職者が担うのが妥当であると考えられている。しかし、比較的新しい分野である不妊症看護に従事する看護職者は、それぞれの経験知に基づいてケアを提供しているという現状がある。

子どもがほしいのにできないことによる悩みやストレスは、カップルが不妊外来への通院を開始する前から始まる。多くのケースでは自分たちが不妊であることを自認するという壁を乗り越えた上で受診に至っているにもかかわらず、様々な理由で通院開始後早期に通院を中断するケースは少なくない。

2. 研究の目的

本研究では、不妊患者カップルが精神面へのケア不足により通院開始後早期に通院を中断するケースを減少させることを目的に、文献検討および実態調査から不妊外来の初回受診カップルへのケアモデル開発をめざす。

3. 研究の方法

(1) 医学中央雑誌、PubMed、CINAHL等のデータベースを用いて抽出した国内外の文献の検討により、不妊外来における初回受診時のケアを抽出する。

(2) (1)で抽出したケアをもとに不妊外来にて参加観察を行い、より具体的なケア項目を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 文献検討

和文献

和文献では患者カップルの身体的、心理社会的な影響に関する調査からケアのあり方を提言するものが多く、初回受診看護に焦点化されたものは僅少であった。Web上でのハンドサーチでは、不妊患者支援のための看護ガイドライン(「不妊患者支援のための看護ガイドライン」作成グループ編、2001)、不妊に悩む女性のための看護(メディカ出版、2010)等の文献も集めることができた。

英文献

生殖医療に関する法およびチーム医療体制が整備されている欧米の文献では、Competences: Specialist competences for fertility nurses(Royal College of Nursing, Second Edition, 2011)やRoutine psychosocial care in infertility and medically assisted reproduction-A guide for fertility staff(ESHRE Psychology and Counselling Guideline Development Group, 2015)など、包括的なケアのガイドラインが公表されていた。

(2) 参加観察

西日本に所在する不妊専門クリニックから無作為に抽出した3施設で6つの初回受診場面に参加した。すべての施設で初回受診者に向けてウェブサイトへの掲載や勉強会の開催、小冊子等の整備が行われており、不妊症看護認定看護師や生殖心理カウンセラー等の有資格者が在籍していた。2施設においては初回受診前に問診票をダウンロードして記入したものの持参が可能になっていた。初回受診当日は概ね問診票の記入、問診、診察、検査、面談という流れで進められていたが、問診票の記入後、医師による診察前に1施設では尿検査を行っており、2施設では看護師による問診が行われていた。来院から会計終了までの所要時間は約2時間であった。

それぞれの場面において提供されたケア項目数は、問診票の記入が1、問診が6、診察が12、検査が2、面談が13のべ34であり、情報収集や情報提供、理解度の確認などが多くの場面において実施されていた。各場面におけるケア項目および実施された内容は図1に示すとおりであった。

初回受診者へのケアは施設のウェブサイトの充実など受診前から始まっており、初回受診当日の流れは概ねガイドライン(「不妊患者支援のための看護ガイドライン」作成グループ編、2001)に則したものであり、初回受診者に提供されるケアは、受診者の生殖医療受療経験の有無等の個別性に応じて調整されていた。国内外の先行研究等との比較から、今回の調査ではカフェイン摂取量や通院と仕事との両立に関する情報収集及び情報提供、受診に至るまでの思いの傾聴やバイタルサイン測定などがすべての施設では実施されていなかったことから、看過されやすいケア項目や実施内容があることが確認された。

本研究は産業医科大学倫理委員会の承認を得て実施した(H29-014)。

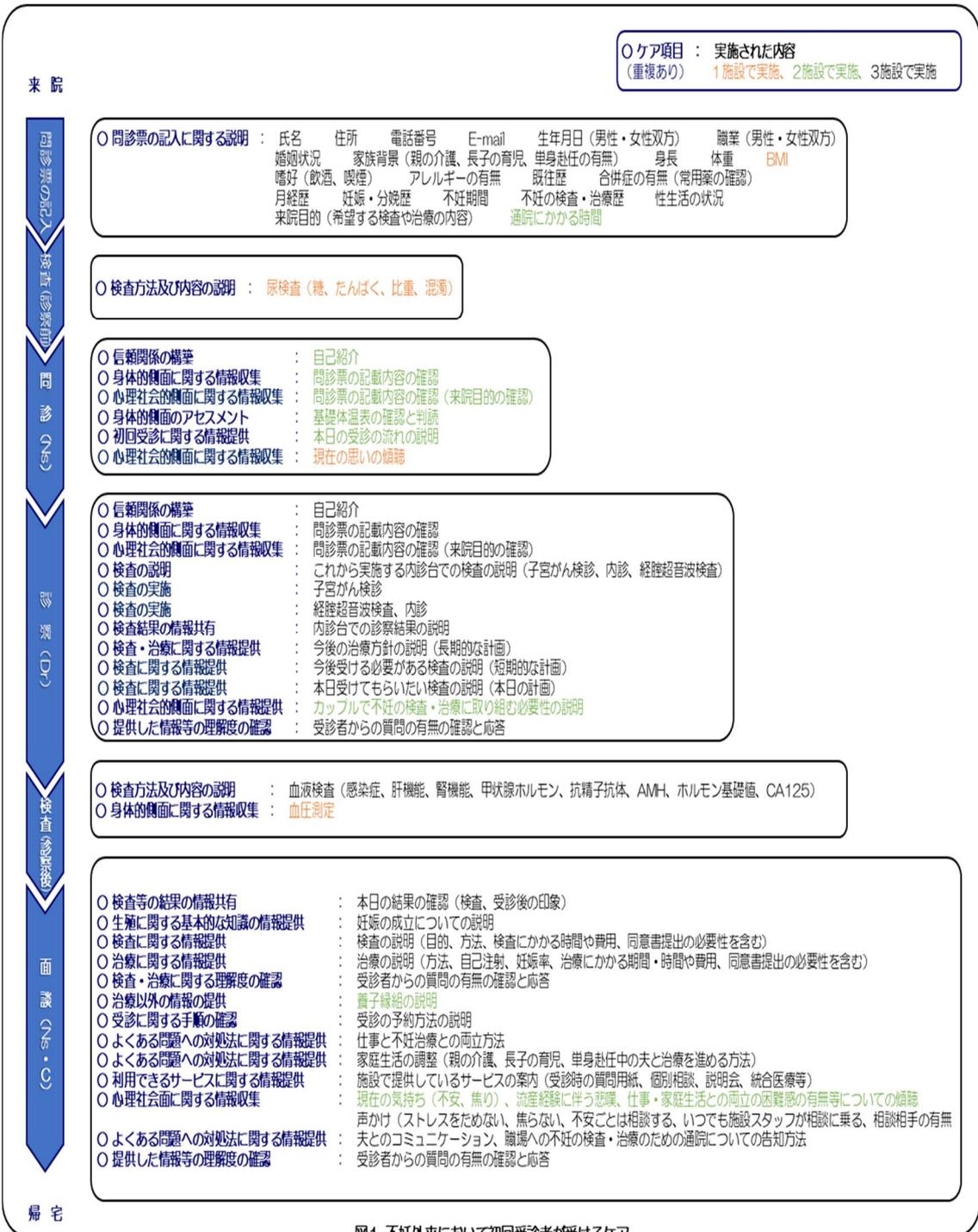


図1. 不妊外来において初回受診者が受けるケア

< 引用文献 >

- 国立社会保障・人口問題研究所. 第14回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査 夫婦調査の結果概要. <https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14/doukou14.asp>, 2011
- 岩澤美保、三田房美. 晩産化と挙児希望女性人口の高齢化. 人口問題研究. 63(3), 24-21, 2007
- 小泉智恵、中山美由紀、上澤悦子、遊佐浩子、中村水緒、川内博人. 不妊検査・治療における女性のストレス. 周産期医学. 35(10), 1377-1383, 2005
- 「不妊患者支援のための看護ガイドライン」作成グループ編. 不妊患者支援のための看護ガイドライン - 不妊の検査と治療のプロセス -. 2001
- 佐藤孝道編著. 不妊に悩む女性への看護. 株式会社メディカ出版. 2010
- Royal College of Nursing. Competences: Specialist competences for fertility nurses. RCN Competences. Second Edition, 2011
- ESHRE Psychology and Counselling Guideline Development Group. Routine psychosocial care in infertility and medically assisted reproduction- A guide for fertility staff. 2015

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Mina JITSUZAKI	4. 巻 3-2
2. 論文標題 Time-dependent Changes in Infertile Couples' Levels of Patient Satisfaction during a 6-months Period after the Initiation of Outpatient Treatment	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本生殖心理学会誌	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mina JITSUZAKI	4. 巻 2
2. 論文標題 Associations among the Levels of Desire for Children, Awareness of Mutual Support, and Patient Satisfaction in First-time Patients Receiving Outpatient Infertility Treatment	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本生殖心理学会誌	6. 最初と最後の頁 6-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 實崎美奈、本田智子、森明子
2. 発表標題 参加観察による不妊外来初回受診時ケアの実態調査
3. 学会等名 第17回日本生殖看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	森 明子 (Mori Akiko) (60255958)	湘南鎌倉医療大学・看護学部・教授 (32729)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------